

日本風景街道だより

2010年 冬 Vol.9

シリーズ:各地域の風景街道の取り組み

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

(シーニックバイウェイ北海道推進協議会)

1. ルート概要

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイは、釧路空港から中標津空港までの4本の国道(240号・241号・243号・272号)と1本の道道(中標津標茶線)を軸にした全長約150kmのルートです。

本ルートは、釧路湿原国立公園と阿寒国立公園を有し、雄大な釧路湿原、阿寒湖・摩周湖・屈斜路湖などの神秘的な湖沼、雄阿寒岳・雌阿寒岳などの山岳景観、根釧台地の広大な酪農景観等、多様で類まれな地域資源に恵まれた6つの市町村を通過し、4エリア・13団体(以下、「活動団体」という。)の連携により活動が進められています。



ルート概略図

2. 活動紹介

<事例1：ルート景観づくりマスタープランの策定>

本ルートでは、景観づくり検討会を平成18年に立ち上げ、フィールド調査や専門家を交えた意見交換を行いながら、景観の具体的な改善策等について活動団体と行政が協力して検討を重ね「ルート景観づくりマスタープラン」を策定しました。平成21年には、かつては眺望に優れた駐車帯であったにもかかわらず、周辺の木々が成長したことにより眺望を妨げていたことから、マスタープランにおいて改善対象となっていた「双岳台」について、環境省や林野庁等の関係機関との協議により、視点場としての再生整備が進められることになり

ました。今後も、関係機関への働きかけを含め、プラン推進に向けた活動を積極的かつ継続的に実施します。



景観づくり検討会の様子(フィールド調査・意見交換)

双岳台(国道 241 号) 視点場の整備

＜事例 2：民間情報拠点“シーニックカフェ”連携による、回遊観光の促進＞

本ルートでは、エゾ鹿肉を使用したバーガーや中標津産牛乳のジェラート等、地場産品を積極的に活用した 4 店舗を民間情報拠点(シーニックカフェ)として位置づけ、各々が連携した活動を行っています。例えば、スタンプラリーを毎年実施するとともに、来訪者のニーズにあわせて作成した手作りの「移動ルート&距離早見マップ」や、ルート内の観光パンフレット等を設置し、ビューポイント等の周辺観光情報の発信や回遊観光の促進を図っています。その結果、来訪者からは「知らなかった観光情報が入手できる」、「地域の印象が変わった」と好評を得ています。

これらの活動内容は、年 2 回程度シーニックカフェスタッフミーティングで決めており、20 代のカフェスタッフが中心となり、企画や実施体制の具体的検討を行っています。



シーニックカフェマップ

移動ルート&距離早見マップ

観光情報の発信

カフェスタッフミーティングの様子

＜事例 3：「旬が伝わる」「顔が見える」地域ライターによる情報発信＞

本ルートでは、ルート HP(<http://sbw.web-p.jp>)による地域情報の発信を行っています。システムは CGI(ブログ)形式を利用し、約 30 名の地域住民がライターとして、随時、情報発信を行っています。地域ライターが更新した記事内では、コメントのやり取りも可能であり、観光客との交流を図ることができます。

地域ライターは、自分の趣味や職域を活かして、地元ならではの「旬の情報」や「スポット」を紹介しています。例えば、阿寒湖エリア・地域ライターのけいこさんは、趣味のカメラ撮影を活かし、阿寒湖の景観写真と撮影場所の紹介をしています。弟子屈エリア・地域ライターの tomoさんは、登山や秘境探検の様子を紹介し、魅力的な情報発信を行っています。

定期的に HP ライターズミーティングを開催し、4 エリアから地域ライターが集り、HP 上での企画検討を行いながら、継続的に情報発信できる体制づくりも実施しています。



ルート HP トップ画面



地域ライター けいこさんの記事

3. おわりに

本ルートは、平成 17 年に活動を開始し今年で 5 年目を迎えます。最初に力を入れたのは、これまで個々に活動していた地域や団体が、連携して取組める体制づくりでしたが、ここ 2～3 年で、ようやく目に見える活動へと繋がった段階に入ったと認識しています。メンバーは、シーニックバイウェイの活動において「継続すること」「検証を重ねること」が大切な事項であると実感しており、今後も、地域の多様性を磨き上げ、息の長い活動を実施していきたいと考えています。

琉球歴史ロマン街道「宿道」^{しゆくみち} (沖縄地方風景街道協議会)

1. ルート概要

琉球歴史ロマン街道「宿道」は、南国沖縄の景観、自然、歴史、文化等の地域資源の個性を生かした風景を創設する運動を促し、観光振興、地域の活性化に寄与することを目的として平成18年12月より活動を始めました。宿道とは、首里王府と各地の間切(まぎり=現在の市町村)をむすぶ道路で、現在の幹線道路といえます。この延長約100kmの宿道を舞台にして北部、南部の2パートナーシップにより活動を行なっています。

北部地区は「グスク(※1)と美ら海^{ちゅらうみ}を風で感じる道」をテーマにし、南部地区は「神話の聞こえるコーラルライン」をテーマに各地区が個性ある活動を行なっています。

本号では、この2パートナーシップが行なっている取り組みについて紹介します。



※1 グスク(城): 沖縄のグスクは、日本本土の「城」とは趣を異にしており、城塞の役割だけでなく、聖域説や住居説など、グスク論争が展開されており、アーチ門、石積みの不思議さなどその神秘性が大きな魅力となっています。

2. 北部パートナーシップ「グスクと美ら海^{ちゅらうみ}を風で感じる道」

(1) パートナーシップ概要

北部パートナーシップが活動するやんばる(沖縄北部地域)には、エメラルドグリーン^{なきじんじょうし}の海や緑萌ゆる山々などの自然と、世界遺産に登録されている今帰仁城跡(歴史文化史跡)など数多くの魅力があります。これらの魅力は、今日まで個々の活動により伝え、そして守られてきました。

北部パートナーシップでは、NPO 団体・市民団体・行政など地域が一体となり、交流の要である北部地区の「みち」を通じてこの地を訪れる方にやんばるの魅力伝え、未来に向けて守り・育てる様々な活動に取り組んでいます。その中で自転車を活用した取り組みを紹介します。



(2) 活動内容

○自転車版快適さマップの作成と交流促進

沖縄本島北部地域では、全国的に有名な自転車競技大会「ツール・ド・おきなわ」やレンタサイクルの実施など自転車を活用した地域づくりが進められています。

サイクリングをしながら南国ならではの海と景勝地、文化遺産等を両方楽しみかつ、安全で快適な自転車利用を援助する目的で「自転車版快適さマップ」を作成しています。このマップは過年度に国道事務所により作成された「道路の走りやすさマップ」を活用し、自転車の走行性を示したマップとなっています。

自転車道や自転車レーン、道路の勾配を図示することで快適コースを紹



自転車版快適さマップ (全体版)

介、あわせて^{ちゅうらうみ}美ら海水族館、各リゾートビーチ、^{なきじんじょうし}今帰仁城跡等観光拠点までのルートや観光スポットに関する情報も掲載しています。

ローカル版を作成することでより詳しい案内を提供することができ利便性も追及しています。なお、マップはホームページからも見る事が出来ます。

URL : <http://www.tour-de-okinawa.jp/sukumichi/log.html#h21map>



自転車版快適さマップ（ローカル版）

また、段差や勾配といったサイクリングをする上で支障となる箇所を点検し、改善可能な箇所については道路管理者と連携して改修することでよりよいみち作りを行なっています。なお、その結果は「走行改善カルテ」を整理することでフォローアップも行なっています。



北部パートナーシップでは、今回紹介した自転車の取り組みの他に歴史遺産等のボランティアガイドを育成するプログラムを企画するなど、観光資源の発掘を行なっています。

北部のテーマである「^{ちゅうらうみ}グスクと美ら海を風で感じる道」は、グスク(歴史遺産)や海(リゾート)を自転車で結び、車では見過ごしてしまうようなスポットを紹介する活動をしています。

今後は、自立に向けた取り組みとして自転車と観光スポットとを結びつけたモデルツアーを企画し、旅行代理店等への売込みを行なうことで^{ちゅうらしま}美ら島とやんばるの風景街道のさらなる魅力の情報発信をしていきたいと考えています。



3. 南部パートナーシップ「神話の間こえるコーラルライン」

(1) パートナーシップ概要

沖縄本島南部は、琉球王国統一の歴史の舞台となった地域です。広々とした平野の南部には、世界遺産でもある「首里城」や古都首里の町並み、王権を支える聞得大君(※2)が守る「斎場御嶽(※3)」をはじめ、歴史の興亡を刻む100を超えるグスクが点在しています。さらに斎場御嶽から遙拝する「久高島」には神の島として「琉球開闢の神・あまみきよ」の伝説があり、また南城市佐敷から発祥した小按司(※4)・尚巴志(※5)が琉球王国をはじめて統一するなど、はるかな琉球王国の神話や伝説、数々の歴史ロマンが語り継がれてきた沖縄の奥座敷でもあります。



▲首里城（那覇市）

南部パートナーシップは、南部地域を一周する国道331号を主軸に、南部地域の美しい珊瑚礁の海岸、南国沖縄の美しい自然や歴史風景など、地域資源を発掘し、その魅力を伝え、守り育てる様々な活動に取り組んでいます。南部パートナーシップからは、琉球王国の伝統的行事『首里城のお水取り』儀式への支援と、『南部地域の資源発掘と魅力の発信』の活動を紹介します。

- ※2 聞得大君: 琉球の信仰における神女の最高位の呼称(通称)。「聞得大君」は「最も名高い神女」という意味
- ※3 斎場御嶽: 現在の南城市(旧知念村)にある史跡。15世紀-16世紀の琉球王国・尚真王時代の最高の御嶽であるとされる。
- ※4 小按司: 琉球王国の称号および位階の一つ。王族のうち、王子の次の位。按司であった尚巴志は身長が150cm未満であったため通称として呼ばれている。
- ※5 尚巴志: 沖縄を初めて統一し琉球王国を樹立した人物 1372年 - 1439年(在位 1421~1439)

(2) 活動内容

① 伝統的行事『首里城お水取り』への支援

「首里城お水取り」は、首里城から約100km離れた沖縄本島北端辺戸へ使者を派遣し、神人と共に拝所を巡り、由緒ある川から水を採り、その水を琉球王国時代に首里城へ謙譲していた伝統的な儀式です。琉球王国時代の古歌謡集「おもろさうし」に当時の王様である尚真王(在位1477年~1526年)の謡が最古の記録としてあり、沖縄戦直前の1943年(昭和18年)まで、約450年間承継されていました。その後、約60年間は途絶えていましたが、1999年(平成11年)に、首里を中心に活動する

メンバーと地元有志が、再びこの伝統行事の復活に取り組みました。南部パートナーシップでは、さらなる琉球歴史ロマン街道の魅力を発掘する取り組みとして、「首里城お水取り」の行事への支援を行ないました。平成20年にはその取り組みが認められ、第11回日本水大賞の審査部会特別賞を受賞しました。



▲お水取り（辺戸地区）



▲日本水大賞表彰式（平成20年6月）

② 南部地域の資源発掘と魅力の発信

○ 地域資源の発掘 ～景観点検ツアーの実施～

南部地域には、有名無名の様々な旧跡があり、有名なものについては色々な文献で紹介されている一方、地元の人しか知らない魅力的な場所が数多くあります。そこで無名スポットを発掘し、これらスポット巡りをする事で課題を洗い出す景観点検ツアーを実施しました。



▲景観点検ツアー（平成19年3月）

その結果、地元ならではの景観資源へのルート案内が不備であること、現況の地域植栽等の樹種選定、植栽管理について課題があることが分かりました。これを受け、案内看板設置の提案や道路植栽の樹種変更等改善方針をとりまとめることで、今後街道のさらなる魅力創出に生かしたいと考えています。

○地域資源の魅力の発信

～モニターツアーの実施、パンフレット・サイン・ホームページでの発信～

発掘した地域資源の特徴を改めて検証し、その魅力を発信するよう次のような活動も進めています。

- ◇古琉球の軍用道路・宿道とし建設された首里城を起点とする「真珠道(まだまみち)」で、一般の方も交えたモニターツアー実施
- ◇地元の高校生等と一緒に、「糸満いとまんのまちあるきマップ」を作成
- ◇国指定重要無形文化財に登録されている組踊りうらそえをテーマした「組踊りロード」ルートを浦添市に設定し、ルートを紹介するパンフレットを作成
- ◇首里城周辺の名所・旧跡についての魅力を伝えるために、説明板を地元の方々の敷地に間借りして設置



▲糸満まちあるきマップ



▲首里城周辺の説明板



また、南部パートナーシップの活動内容を伝えるために、ホームページを平成 21 年 5 月から開設しています。
(<http://www.okinawa-fuukei.com/>)

このホームページでは、メンバー自身が旬な情報を「ブログ記事」として投稿できるシステムを導入し、正確で信用できる情報をこまめに更新できるようにしています。

4. おわりに

琉球歴史ロマン街道「宿道」は、今回紹介した北部、南部の2パートナーシップにより構成されており、さらにそのパートナーシップを支えるたくさんの団体が様々な活動を行なっています。これまでは、伝統行事への支援を主として行ってきた団体、自転車の活動を行っていた団体、ボランティアによる観光ガイドを行っていた団体、道路管理者等、個々の活動・取り組みを行っていましたが、当活動を通じこれらの団体がコラボレーションすることでさらなる活動の広がりを見せようとしています。地域の人々が愛情を持って育てた街道が点から線として繋がったときに、うちなー(方言で沖縄のこと)の更なる魅力が発揮されると考えております。皆様、今後の琉球歴史ロマン街道「宿道」に乞うご期待下さい。



メンバーが、イベント開催や地元情報などの記事を随時投稿

▲トップページ <http://www.okinawa-fuukei.com/>

全国で114の風景街道が登録

平成21年11月に近畿地方で1ルート、12月に東北地方で3ルートが新規登録されました。これにより全国で114の風景街道が登録されました(平成21年12月末現在)。

東北地方の新規登録3ルートは、「十和田奥入瀬浪漫街道」、「奥州街道と縄文のみち」、「黄花草の東むつ湾ルート」です。

近畿地方の新規登録1ルートは、「ふくいやまぎわ天下一街道」です。

なお、登録された各風景街道の概要は、日本風景街道ホームページ(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>)、もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。

掲示板利用の登録や、日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	五十嵐光徳	011-709-2311(代表) (内線 5357)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	本木 雅信	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	川崎 浩之	048-601-3151(代表) (内線 4253)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	村下 剛	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	廣瀬 昌俊	052-953-8171(代表) (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	竹井 賢二	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	角 秀俊	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	助田 豊治	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	中川 英一	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	崎間 斉	098-866-1914(代表) (内線 4353)

【ご意見お寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局地方道・環境課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>